

カノープスをみよう

カノープス



2016. 1. 12 22:05

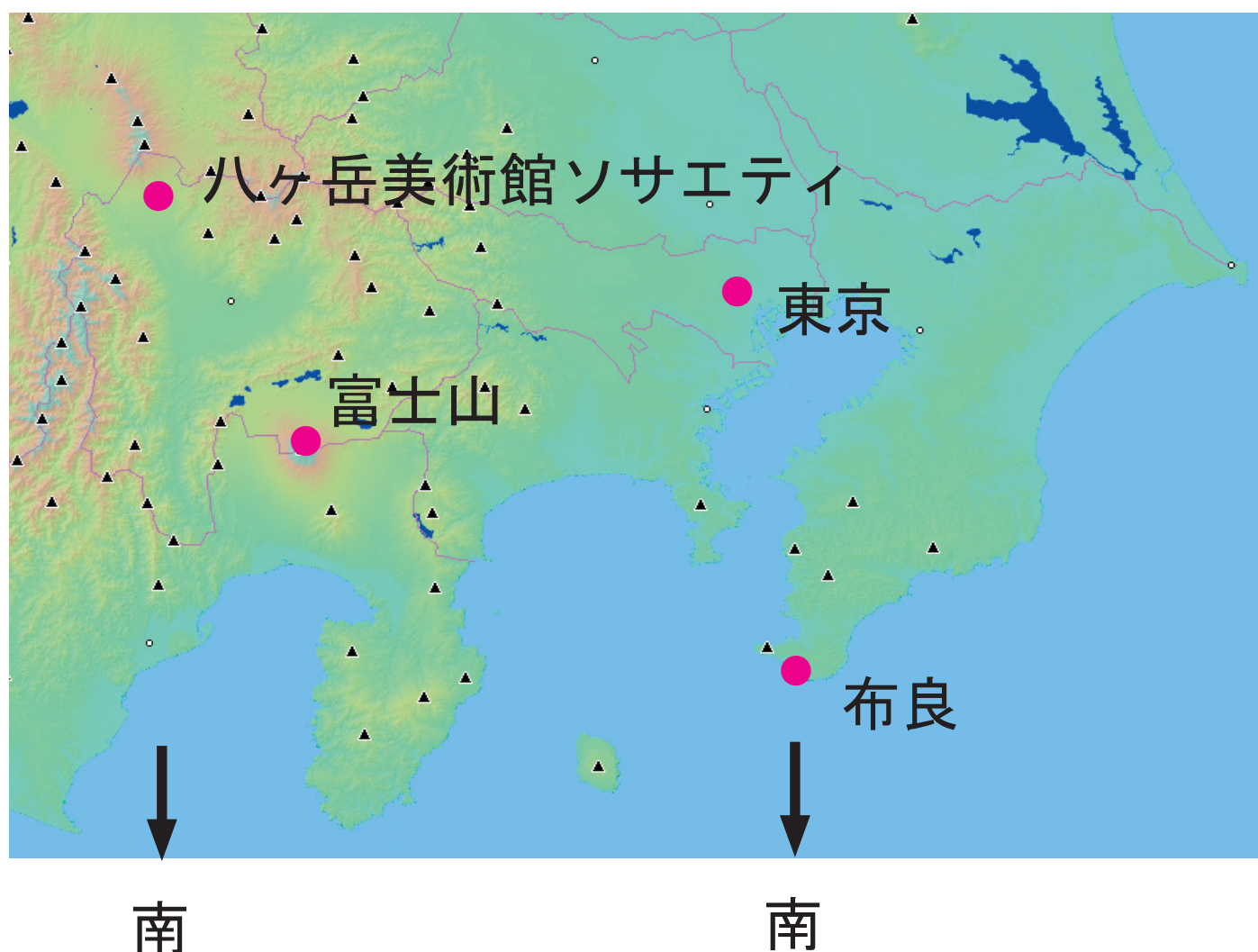
カノープスはりゅうこつ座の1等星で冬、南の地平線ぎりぎりにしか現れません。なかなか見られないこの星を見ると「長生きする」といわれます。別名「南極老人星」とも「布良星」とも言われます。

布良星の由来は千葉県房総半島の突端にある「布良」という場所で見られるのでそう呼ばれます。

ふつう、カノープスは南の地平線が見える海岸などでなければ観察できません。

しかし、偶然にも八ヶ岳美術館ソサエティの展望台からカノープスが見えます。山岳地域で見られる場所はとても珍しいのです。

この場所は標高約 1100m から見下ろす場所で、しかも南が富士川に沿って開けているからです。



この場所でカノープスを見る方法

- 1、見える方向に雲や霧、モヤがない日。
 - 2、見える期日と時間が限られます。
 - 3、月明かりのない日には肉眼でも見えますが、月明かりがあるときは双眼鏡などで探してください。
- カノープスは赤く輝いています。

見る方向

甲府盆地の夜景の右側の地平線近く。
山名の解説板を見ると「甘利山」があります。カノープスは甘利山のやや左から真上を通過して、山に隠れます。

カノープスが見える時刻表

日時	見え始め	南中	山に隠れて見えなくなる時刻
12月1日	0:30	1:30	1:55
12月15日	23:35	0:35	0:50
1月1日	22:30	23:30	23:55
1月15日	21:30	22:30	22:55
2月1日	20:25	21:25	21:50
2月15日	19:30	20:30	20:55
3月1日	18:40	19:35	20:00
3月10日	18:45	19:00	19:25

カノープスは上記の時刻表の12/1～3/1までの間なら毎日見られます。

「南中時刻」の、1時間前、25分後まで見られます。

南中時刻が月日を追うごとに、早くなってきました。（半月で約1時間、1日約4分）時刻表にない日はおよその南中時刻を読み取り観察してください。

ただし、3/10くらいが最終で、日没の時間が遅くなる分、見える時間は少なくなります。